

出題傾向の 解説&解答の ポイント

2019年度 一般入試A日程(1日目)の 「英語」を詳しく解説!

英語

出題形式

本日程の試験問題は、文法・語法・熟語問題と整序英作文問題を合わせた大問1題、会話文問題1題、英文読解2題の大問4題で構成され、46問の問題数に対し、80分の試験時間が与えられている。550語前後の英文読解が2題含まれているものの、時間内に解答することができる問題量であると言える。第1問は文法・語法・熟語の知識を問う空所補充問題と、和文の意味に沿って、五つの選択肢を並べかえ英文を完成させる整序英作文問題の2種類で構成されている。第2問の会話文問題も、短い会話文問題4題と、やや長めの会話文問題1題の2種類で構成されている。特に後者の問題では、5か所の空所に対して選択肢が六つ与えられているため、やや難しく感じられるかもしれない。会話特有の表現も少々あるが、文脈把握が主である。第3問・第4問は、550語程度の英文読解問題であり、両大問とも、内容・語彙はセンター試験レベルと同等かやや易しめと言える。同じ英文読解問題でも、第3問は内容一致問題、空所補充問題などに関連させつつ、文法や語彙・熟語の知識も試しており、問題の指示・選択肢などは和文で書かれている。第4問は、設問文が全て英語で書かれており、大問全体で読解力を試している。

解答のポイント

本日程の問題は、文法・語法・熟語の知識に関する問題、会話文問題、英文読解問題がバランスよく出題されている。全体的なレベルはセンター試験と同等かやや易しめである。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

まず、第1問は、高校で学習する文法・語法や語彙・熟語の様々なジャンルから満遍なく出題されている。文法・語法の典型的な問題が出題される傾向が強いため、基礎～標準レベルの大学受験用問題集にある最重要項目から順に演習を進めるとよい。整序英作文対策としては、日頃からSVのつながりを意識して英語に触れつつ、上記の対策を活用して、文法・語法を用いた重要表現を身につけるとよい。

第2問の会話文問題は、主に会話での文脈把握力を試している。そのため、第3問・第4問の英文読解対策を活用しつつ、いわゆる「会話の流れ」を正しく理解するよう意識しながら問題集などで演習するとよい。ただし、会話ならではの表現も問われることがあるので、テキストや受験用問題集に載っている表現はきちんと覚えておくことが大切である。

第3問・第4問は、ともに500～550語程度の英文から出題されているが、出題形式は異なる。第3問の空所補充において、選択肢の語彙は標準レベルだが、前後の文脈を理解する必要があるため、前後の文もよく読むことが大切だ。入試対策用基本～標準レベルの単語・熟語帳を完成させるだけでなく、文章の流れを意識しながら読む訓練も必要である。また、第4問では、問題文・選択肢が全て英語で出題されているため、形式自体に苦手意識を抱く受験生もいるかもしれない。対策としては、本学の過去問題や、問題形式が似ているセンター試験の問題、検定ものの問題集などを使い、演習を積むことが有効だろう。